第26回神奈川大学全国高校生俳句大賞 最優秀賞/選者賞/入選作品リスト(筆ぐるめ31シリーズ)

	第26回神奈川大学全国		则 大	員 敢慢穷員/连石員/	/人;		コシリ	
No 賞名	高校	氏名		一句目		二句目		三句目
1 最優秀賞	磐城高等学校	坂本 佳樹	-		_	窓越しの顔を過ぎたる冬銀河	1	初氷ひびは誰かの恋の跡
2 最優秀賞	四日市高等学校	条内 瑞生	-	桐一葉祖父のお襁褓を買いに行く	2-2	つやつやの丸茄子に棘17歳	2-3	大西日鈍行列車でひとり
3 最優秀賞	洛南高等学校	清水航	-	ハくつものキャラを演じてソーダ水	_	AIに相槌のなし羽蟻の夜	3-3	団栗やぼくは十二桁の数字
4 最優秀賞 5 最優秀賞	西宮香風高等学校 徳山高等学校	真野 彪飛 大迫 悠真	-	タ食は冷たきカボチャ鑑別所 思ひ出は忘らるるもの潮干狩	4-2 5-2	アクリル板越しの母親秋暑し	4-3 5-3	四通の手紙うれしき檻の秋 水彩の空かはきゆく日永かな
6選者賞(大串章賞)	名古屋高等学校	加納 輝一	-	雲の峰競といふ字に兄ふたり	6-2	出港の汽笛ひびくや春の山 道の字に首運ばれて太閤忌	6-3	秋立つや繁の字に糸織り込まれ
7 選者賞(恩田侑布子賞)	用南高等学校 理南高等学校	知念 ひなた	-	星月夜師は幾許の銀貨であった	7-2	ゆつくりと桜の見えぬまでの道	7-3	そのあとのザネリのくらし棉の桃
8選者賞(長谷川 櫂賞)	三本木高等学校	中野渡 孝佑	_	真っ白な俳句用紙よ溽暑の夜	8-(2)	俳句など亡んでしまえ月涼し	8-3	松尾芭蕉お前のせいだコカ・コーラ
9 選者賞(復本一郎賞)	済美平成中等教育学校	瀬野 竜旺	-		_	月天心河童伝説ありし川	9-3	盆の月祖母は私の面忘れ
10 入選	三本木高等学校	向井 彩乃	-	ランドセル揺らし私に「こんにちは!」	-	雪合戦ソリいっぱいの小爆弾	_	夏祭り三年振りの大にぎわい
11 入選	三本木高等学校	治部袋 皐		ラムネ開け吹き出す泡は火山のよう	11-2	浴衣着る彼女の笑顔は一等星	_	目の前で飛び交うハエは腹立たしい
12 入選	三本木高等学校	山﨑 悠生	12-①		12-2	遠花火ベッドに座り見入る夜		暑き日の手に持つペンも熱を出す
13 入選	花巻北高等学校	千田 大和	13-①	しゃぼん玉吹きなよたばこなんかより	13-2	ここ虹の根元なのかも自転車漕ぐ	13-3	俺だけが泣いてた喧嘩ソーダ水
14 入選	花巻北高等学校	千田 大和	14-①	知らぬ間に中退した子梅雨に入る	14-2	紫陽花や女子は怖いと女子の言う	14-3	トマト食むじゅるじゅる吸って離す口
15 入選	花巻北高等学校	千田 大和	15-①	先生の字を書く速さ夏立ちぬ	15-2	昼寝するために眼鏡を外しをり	15-3	日直のふた巡りして梅雨曇
16 入選	花巻北高等学校	千田 大和	16-①	大試験終へ弟の眠る椅子	16-2	龍天に登るか雲の一直線	16-3	飛行機が空揺らす音夏近し
17 入選	水沢高等学校	櫻田 樹里	17-①	竜の音膀胱ゆっくりふくれゆく	17-2	無花果や生理二日目の私	17-3	地吹雪や子宮に届く母の声
18 入選	水沢高等学校	櫻田 樹里	18-①	晩春や病名長き診断書	18-2	鼻栓の尾まで赤きや夏の果	18-3	逆流の胃液飲み込む星月夜
19 入選	水沢高等学校	櫻田 樹里	19-①	/コードの溝の埃や晩夏光	19-2	赤本は私の枕秋麗	19-3	秋の宵曽根崎心中読み終わる
20 入選	水沢高等学校	鈴木 綾乃	20-① 4	卵白に米透けている今朝の夏	20-2	堤防に自転車二台雲の峰	20-3	夏休みノートに俳句の種あふれ
21 入選	水沢高等学校	及川 華凛	-	春寒し祖父の帽子にGPS	-	香水が変わった姉とすれ違う	_	毛糸編む祖母に教わる黙り方
22 入選	水沢高等学校	引地 佳歩	_	自然葬がいいと言う父春夕焼	_	夏雲や拒食の姉の手は細い		冬夕焼祖父の最期の日記読む
23 入選	水沢高等学校	引地 佳歩	-	春光や賢治のセロのf字孔	_	春の夕絡繰時計のト短調	_	フルートに触れるくちびる今朝の夏
24 入選	水沢高等学校	引地 佳歩		集生る祖父の遺品を埋める庭 4 c 同はない は c せかかか		姉の愚痴尽きることなし蜜柑剝く		冬夕焼父の機影は黒く濃く
25 入選	水沢高等学校	中澤美賀	-	タの風遠くに姉の神楽鈴	-	剣先に大蛇の舌や里神楽 スポート	-	太鼓の音乱れる夜の神楽かな
26 入選	秋田北高等学校	角崎 良佳		去年より少し彩度の高い夏	_	通話歴眺めるだけの熱帯夜	_	休暇果つペディキュアはまだ落とさない
27 入選	磐城高等学校 須賀川創英館高等学校	榎本 佳歩	_	朝焼に浸りて街のしづかなり	-	裏返る点字ブロック風死せり		百円の水飲み干して避暑終はる
28 入選 29 入選	須賀川創英館局等字校 東日本国際大学附属昌平高等学校	小林 秀典	-	麦秋の闇夜行き交うコンバイン 通学路夏居座りて青繁る	_	電牧の下草入道雲の白 夏服の袖引く風や海の声	_	青草の中黒毛追い込むおじの汗 合宿や林が騒ぐ夜の秋
30 入選	果日本国际大子附属自平尚等子校 星野高等学校			世子路見店座りく育業の		夏服の相引く風や海の声 梅の花かつて兵器の落ちた庭		言信や外が強く夜の秋 三階は癌のフロアー寒鴉
31 入選	生町両寺子校 海城高等学校	金光 舞 天野 太喜	-		-	梅の化かって共奋の各らに姓 椅子下をルンバさまよふ盛夏かな	_	二階は相のフロノー参加 名月や塾生集ふラーメン屋
32 入選	海城高等学校	中村 治樹		道なきを奥へ奥へと麦茶鳴る	_	魂の形で駆ける夏野かな	1	荷にひまわりを一生分積んで旅か
33 入選	海城高等学校	演野 佑太	_	過去形が気になる返事シクラメン	-	ラムネ飲み干すや小指を浮かせたり		消しゴムを割ってひとつを貸す小春
34 入選	共立女子高等学校	川嶋 里佳	-	顎に手を当てる蕃茄の匂ひける	_	大袈裟に折れるチョークや夏來る	_	子の手には水鉄砲や敗戦日
35 入選	自由学園高等科	西野 奏子(※1)		みずたまり踏み抜くまで夏は来ないで		手の中で過去になりゆくソーダ水		焼きそばを食む焼きそばとすれ違う
36 入選	自由学園高等科	西野 奏子(※1)	-	年輪を今つくりつつ桜咲く	-	梅雨に暮らせばぜんぶ梅雨の味	_	コスモスや橋の向こうに最寄駅
37 入選	立教池袋高等学校	辻村 幸多		豆腐屋のまつすぐに来る霞かな	_	破水して牛舎せはしき春の雨		屋根替を終へてがやがや降りてくる
38 入選	立教池袋高等学校	川本 伊吹	_	鉛筆の白のみ尖りヒヤシンス	_	逆立ちのできさうな日の秋桜		散髪に微睡んでをり日永し
39 入選	神奈川大学附属高等学校	谷本 晴菜	39-①	マスクなしはじめましての素顔たち	39-2	芝駆ける三頭身のラガーマン	39-3	生温い一番乗りの自習室
40 入選	慶應義塾湘南藤沢高等部	柳井 仁	40-①	本棚の宇宙を開く夜永かな	40-2	さえずりがくすぐったくて山笑う	40-3	夜を刻む秒針銀河へと響く
41 入選	横浜翠嵐高等学校	新堀 笙子	41-① i	朝焼や古びてくぼむ木馬の背	41-2	贈り物みたいに結わえハンモック	41-3	おかえりを言う人がいて星月夜
42 入選	横浜翠嵐高等学校	新堀 笙子	42-①	パレットに絵具たっぷりヒヤシンス	42-2	たんぽぽや名前の同じ同級生	42-3	春の馬しっぽは一拍弱おくれ
43 入選	横浜翠嵐高等学校	清水 風希	43-①	妹のピアスホールや春兆す	43-2	姉婿の靴気にくわぬ西日照り	43-3	あと五秒早けりや乗れた夏帽子
44 入選	長野清泉女学院高等学校	青木 心結	44-①	 ぽんぽんと西瓜を叩く母の顔	44-2	若竹のみるみる吾よりたくましく	44-3	海の恋終ってアイスレモネード
45 入選	長野清泉女学院高等学校	菅谷 知世	45-①	楽の実手紙を添えて届きたり	45-2	夏風邪やちょっぴり母に甘えたき	45-3	数珠玉の数をさぐれば祖母のこと
46 入選	鶯谷高等学校	小山 るり	46-①	こんぺい糖からんころんと春愁	46-2	工学部志望を変へず大向日葵	46-3	炎天や海豚の描く曲線美
47 入選	桜花学園高等学校	長谷川 文音	47-①	朝寒やポニーテールの首細し	47-2	ジャム瓶の固く閉められ冬深し	47-3	大寒やゴシック体の参考書
48 入選	幸田高等学校	齋藤 花央梨	_	桜桃忌何をもっての失格か	_	プリントの隅の句想や九月尽		初恋と失恋の味ソーダ水
49 入選	幸田高等学校	木原 佑輔	_	新調のメガネ馴染まず秋の暮れ		カレンダー斜めに読んで夏の風邪		病院の十三階や秋曇り
50 入選	時習館高等学校	山田 ひなの		夏草や校舎のそばの猫車	-	菊日和ひとりで巡る古本屋	_	洗濯機の音はかすかに月氷る
51 入選	東海高等学校	松井 宏志郎		黒板の正の字真直ぐ風光る		不確かな地球を映す昼の月		指一本ボルダリングや蟬の殻
52 入選	洛南高等学校	古田 優太郎		金魚売東海道を横切つて	_	行く人はみんな旅人苔の花		ランナーの挨拶の声秋高し
53 入選 54 入選	洛南高等学校	富嶋 大晃	-	箱庭の松のびのびとあはれかな ふつふつと抹茶に泡や山笑ふ	-	よく読む人よく飲む人と端居せり 朝焼に干されしままのシーツかな		タ風にふくれ和蘭陀獅子頭 あやとりの橋を受け取る星月夜
55 入選	洛南高等学校 伊丹高等学校	清水 航 廣谷 天晴(※2)	-	かつかつと休余に泡や山夫か 梅雨明けやシーブリーズのにおいがする	_	朝焼に十されしままのシーラかな サイダーがあの日の僕に帰らせる		夢を買いひまわり見ていた祖母の目は
56 入選	運高等学校	岡本 龍太郎	-	ハウスぢゆうトマトの熟るる月曜日	-	著茄垂るかつて空襲ありし地に	-	金亀子指紋に脚を掛けにけり
57 入選	灘高等学校	田村 謙悟		祝勝の宴のあとの夜長かな		恋人を待てばしきりに秋の雷		千円の肖像笑ふ夜寒かな
58 入選	灘高等学校	渡邊 広脩		そこらぢゆうカーブミラーの秋暑かな		腰掛けてみれば残暑の人力車	_	溝蓋の途切れたる溝秋の雷
59 入選	桐蔭高等学校	鎌田 琉夏	-	終戦日歪な形の山仰ぐ	-	病室の熟れる気のない林檎かな	_	無気力な十七歳や暮の秋
60 入選	出雲高等学校	藤川 颯太		関数の重きページや夏休み		ハードルにぶつけし膝やかき氷		炎天や砲丸更に重たくて
61 入選	盈進高等学校	小野 姫来	-	午ばんだ背中にめり込む通学カバン	-	伸ばしかけの髪に手をやる九月の朝	_	目が覚めて慌ててペン持つ夏の夜
62 入選	徳山高等学校	大迫 悠真		天道虫めざめて朝といふ時間	_	ぼんやりとしてゐる未来月見草		ハンモック小人になつてゆく心地
63 入選	徳山高等学校	原田 爽花		星月夜決して出せない手紙書く		星月夜塞がりかけのピアスホール	_	星月夜サビから先は歌えない
64 入選	徳島市立高等学校	頭師 真心子	64-① i	制顔の亡骸からから最終日	64-2	泣く私勝っても負けても炎天		天の川世界はきっと音楽だった
65 入選	愛光高等学校	飯本 真矢	65-①	みづうみヘアイヌの謡ひ秋麗	65-2	花椒の痺れに春の驟雨かな	65-3	いざよひや捕虜らの墓は北を向き
66 入選	愛光高等学校	星川 優希	66-①	晩夏光百均ネイル剝げ残り	66-2	微睡みて見知らぬ駅や居待月	66-3	愛猫の温みへ帰る師走かな
67 入選	今治西高等学校	田頭 幸太郎	67-①	急流へ流す田舎の夏ともし	67-2	夕立の過ぎたる山の滑走路	67-3	瀬戸内の静かな海や原爆忌
68 入選	済美平成中等教育学校	瀬野 竜旺	68-①	花曇過去のLINEを読み返す	68-2	噴水やこっそり友の影を踏む	68-3	友もみな哲学者めく大試験
69 入選	済美平成中等教育学校	瀬野 竜旺	69-①	屋上の柵に片足出す日永	69-2	毛筆で落書きをする子規忌かな	69-3	祖母作る草餅少し塩っぱくて
70 入選	済美平成中等教育学校	青山 和加	70-①	蛇口みな晩夏の空を向いている	70-2	八月や光を描いて白チョーク	70-3	制服のボタンの固し夏の雨
71 入選	松山西中等教育学校	德永 彩乃	71-①	さみだるる踏切を待つ救急車	71-2	ハンモック海の記憶をさまよいぬ	71-3	夏の日が大人に変えた同級生
72 入選	松山東高等学校	篠原 孝太		薫風や旧道上るダンプカー		秋蟬や古墳調査の缶珈琲		冴え冴えと十万トンの化石かな
73 入選	久留米高等学校	今村 心咲	_		_	飲むたびに麦茶の氷の音変わる	_	空を見て向日葵たちは高く咲く
74 入選	城南高等学校	湯浅 美那海				祖父母からまた送られてきた葡萄		発言は取り繕わず春の雷
75 入選	興南高等学校	玉榮 大誠		朝焼や島から島へ可動橋	_	ボラードの灼けたる様を見て触る	_	まだ細き片陰に身を収めたる
76 入選	興南高等学校	速水彩華	_	雨蛙石敢當にしがみつき	_	麦飯の箸に一粒すかしみる	_	駅弁の小梅埋もれし雲の峰
77 入選 ※1 西の字は、中が二本 ※2 廃の字は、亡の中が	興南高等学校	速水 彩華	77-(1)	虱薫るコンパスの針跡深く	77-(2)	影ゆれて水鉄砲の中の水	77-(3)	草いきれ抜けたる帽子濃く匂ふ
ハ1 ロッナル、中か二本	カン・ハルユ							